京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久縛一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

朝鮮と宣教所（二）

昨報ブフォレスト博士の朝鮮宣教論文續き

惟ふに日本は基督教宣教事業に最善なる政治的事情を有する國なり日本に於ては公正嚴明なる政府の下に信教上の自由を保障せらるればなり官吏は宣教の方法に關し多少の管理を爲すことあるも教徒の信仰に關しては何等干渉を試むることなし學校の設立に關しては固より官廳の許可を要するも教會の設立聖書研究會の開催日曜學校の開設傳道説教の公開に至りては絶對的自由を與へられ而して時に兵營内に於て兵士の聖書を携帶することを禁ぜられ學校に於て基督教徒なる教師又は生徒の排斥せらるゝことなきに非らざれども是とて宗教の排斥の意義に出づるものに非ず實際に於ては軍隊に於ても各種學校に於ても基督教徒にして有力の地位を占むるものあり傳道事業及宗教監督の事に關する政府の顧問にして世上に名聲ある基督教信徒たる者亦尠からず斯の如き強國、着實、公正なる政府に於ては宣教師問題の如きは何等困難を生ずるの理なきが如くなるも同問題は事實上然かも單純なるものに非ず種々の誤解は多くの方面に生じ其の情勢寔に容易ならざるものあり而かも幸にして該問題の未だ國際問題の色彩を帶ぶるに至らざるは偏に宣教師等の能く基督教信徒たるの体面を重ぜると日本政府が忠實に信教自由の主義を守るの誠あるとに由らずばんあらず

露國の大運河

兼て噂のありたる黒海と波羅的海とを連絡する露國の大運河開鑿工事は本年度より愈々起工さるべしと云へり該開鑿工事費は約二千六百萬留の豫算にして露都西國資本家のシンヂケートにて之を受負ふ事と爲るべく運河の延長多腦河と西部ドウイナ河の間二千浬にして洋航深吃水の汽船も通行するに妨げなかるべく同運河の兩端リーガ港とヘルソン市は引續所として非常の盛況を呈すべく目下露國南部地方より輸出せらるゝ穀物は皆該運河に依りて輸送せらるゝ事と爲るべく此運河開鑿工事愈々起工さるゝの曉には數萬の露國勞働者之に從事するのみならず露國冶金業の一大發展を見るべしとて露國商工業者は一日も早く該工事の實施せられんことを希望しつゝありて該運河竣成の曉には「ニコライ二世皇帝運河」の稱を冠すべしと云へり

外事一束

●ムムム男の辭職　ムムム男は五月頃ならんとの事なるが後任としては一九〇一年以來駐英大使として其の經歴に於て其の手腕に於て獨逸外交家中の錚々たる伯ウオルフ、メッテルニヒ擬せられ居りしが最近の情報に依れば現駐清公使レックス伯爵は獨逸皇太子殿下の御來京後駐日大使に榮轉すべき内命に接したりとレックス伯の圓轉滑脱なる怪腕は清國外交界中の白眉伯が着任後の霞ヶ關こそ見ものなるべし

●滿鐵　社債の成功は主として善意の資本家が募集に應じたるに因るものにして倫敦株式市場は超然として傍觀の位置にありしと關税問題の影響が茲に到れることは爭ひ無き事實なり

●露國　外相サゾノフ氏はバクダット及北部波斯鐵道の將來に關する露獨協商の狀態に就き常に佛英兩政府に充分事情を通報しつゝありと露獨協商の本文は未だ公にせられざるも英佛各新聞の反感的論調を恐れて此の擧に出でしかさもあり得べき事なるも單純なる經濟的意味に限らるると爲すは吾人之を信ずる能はず

●陳直隷總督は過般第四次國會速開請願代表者たりし温世霖を七日夜突然捕縛せるより總督の野蠻行爲を攻撃するもの多かりしが總督は同人を流刑に處し新疆に送るの上奏を爲したるに九日裁可の上諭ありしと國會代表者が嚴罰に處せられたるは之を以て嚆矢とするが愈々開會に到るまでには尚は多少の波瀾を免れざるべきか

文苑

●御題有感　掬水生投

新春の勅題は寒月照梅花、いとも目出度き御題である、新春とはいへまだ寒し寒きところに新春らしく見へる、照る月も寒ければ匂ふ梅花もまた寒し、寒き月寒き梅花に新春の氣は擱まれる起き出でて雨戸を押し開けば新春の曙光はまだ東天に兆からず慄とする寒さに頸元を冷やりさせて打ち仰ぐ大空に一輪の寒月氷らんばかりに照らしてこやらに梅の香のするぞゆかしき斯くて梅花を照らす玲瓏たる寒月、明けがたの空に殘して新春の夜は全く明け放れると、見くさりし梅はそれと指すかたに薫りて春告鳥の早くも來鳴くも嬉しき新春の光景である寒月は春月にあらず秋月にあらず夏月にあらず月の中に凛乎たる冴わは寒月の外求むべきものでない、凡そ春の月はおぼろ／＼に鼓の音によろしく、秋の月は澄み渡りて氣自ら爽かにて琴の音に相應しく、夏の月は清く殊に川面を照したる越すゞ／＼涼しきに笛の音の聞へ渡るも氣持よし、寒月は冴わ凛たる趣あり冬の月は則ち寒月なり、寒月と梅花と最ともめでたきにこそ、寒月は梅の香れい綺麗として見、模糊として眺める以外に吾人の胸に響くものがある、夫は外でもない水の如き寒月に照らされつゝ梅花の匂へる壯烈の様は洵に一の教訓とこう思ふのである、梅花は匂ひ高し櫻花の如く艶ならざれども氣品自から高く、斯く梅花の匂ひ高きと氣品の高きは何故なりやと云はゞ是は寒氣に堪へ得べきの氣ある花の精があるのであら、如此總ての艱難に克ち得る氣節高適なる梅花を玲瓏沖天に輝く一輪の寒月に照す趣は恰も皇威八荒に耀き聖徳蒼生に普きに髣髴たるもので誠に結構な御題であることを感じたのである

山中鹿之助　第五十七回　西尾麟慶演

謀られるとは知らぬ虎丸、命に懸けて惚た女の九重姫を見て大きに喜び 虎「夫は誠に有難ひ、ヤイ九重、素直に俺の云ふ事を聞ばそんな苦ひ思ひもせずに濟むのだ、貞女兩夫に見へずなぞと云ふ古風な科白を並べるから、こんな目にあつたのだ、俺の古巣を燒た古猪之助は金藤太殿の手下の爲に殺され、是から先汝達は罠をもがれた小鳥同様何うする事も出來めエ、慈悲深い俺に茲で逢ふたが未だしも幸福、永く俺の機嫌を取れば樂樂はしたいまだよ、今日から心を改めて俺の心に從へ



傍に居りました兵庫之助の金藤太 兵「虎丸殿、悠然私が九重姫には因果を含めて、是から先ぎ貴さんの心に從ふやうに致しませう、先づ夫迄は此の金藤太にお任せなさい、ヤイ／＼奴郎ども二人を檻子の下に投込んで夫迄窮命させて置け ○「承知しました、ヤイ二人の奴等、キリ／＼立て」泥棒も芝居がゝりで九重姫に繩の二人を下に連れて往きました、跡に虎丸は 虎「いろ／＼御世話になつて誠に忝ひ就ては大江山の賊家を燒れし時金は大事と取除て置た五百兩、是は貴下に預けるから何うか受取て置て下さい 兵「夫では確にれ預り申しました、してやつたりと兵庫之助、こみ上る笑ひをかくして、此の金を預りまして、又々酒を飲み始める、虎丸に從て來た手下は大層酩酊致して、夫へ倒れ前後不覺に眠りました虎丸も大層酔つたものと見へ 虎「金藤太殿、大江山の山の中から出て來た此の虎丸、船で諸方の景色を見渡す程こんな面白い事はない、山と違つて海の景色は又別段、殊に今夜は思ひに思つた九重姫が、伽をする樣になるとは大分運がむひて來た、アー宜ひ心持だ、船端に腰を凭せ頻りに水面を見て居りましたが 虎「コレ、誰か水を持て來イ此の聲を聞て時分はよしと大谷古猪之助、板子をバラリと刎上げてノソリと夫へ出て參り 古「虎丸、今末後の水を飲してやる 虎「オー、僧は汝は古猪之助先に手下に討れたと聞きつるに、何うして茲に」と暫時呆れて居りました古猪之助は莞爾笑ひ 古「愚かなり虎丸汝が懸想の九重姫は我が主人と頼む鹿之助殿の奥方なり、是が爲に母も自害致し、其の事も即は汝にあり、是迄の顛惡今日にせまりたれば、覺悟せよと引拔たる一刀水もたまらず虎丸の頭を切落しました傍に醉て寢て居りました虎丸の手下の奴ども、此の物音に驚ひて、目を醒すと横道兵庫之助の金藤太が、手下に指揮をして片端から切て落した、實に積惡の報ひは恐しきもので御座ひます、金藤太の兵庫之助は大谷古猪之助に對ひまして 兵「先づ虎丸を殺して五百兩の金子が手に入つた以上は、取ためた金と合して千兩、是を持て播州上月の城に參り、軍用金として御主人山中鹿之助樣に差上げ、夫を一ッの功に吾々上月に入城を致しませう又二ッには、九重姫を山中樣に御連れ申せば」是も吾々の功になる 古「イヤ御尤もの仰せ、善は急げ、直に播州の上月に立越えんと相談一決致しました、之を聞て姫君は勿論、栅浮舟の喜びは一と通りで御座いません、手下の奴等も之を聞き ○「何うだ源太、何うもこんだの頭に先の頭とは違つて、賊をしながらも情けがあると思つて居だが、僧は尼子の御家來山中鹿之助と云ふ豪傑の御身内であつたか頭が上月へ入城をすれば吾々も其部下となつて、立派な軍人になれるのだから斯な嬉ひ事はない 源「左うだ／＼、盗賊を廢めてこんだは立派な軍人になれるのだから、云はゞ俺達の身の出世、一刻も早く上月の城へ往きたいものだ、人の性は善さやら横道兵庫之助の話を聞き、小賊どもゝ茲に改心致しました ○「頭が直りました、宜ければ錨を拔きませう 兵「船を出すは宜いが、虎丸始め大勢を殺して、船端が此の通り汚れて居る清潔に清めて夫から船を出せ ○「畏りました」血汐を清潔に洗ひ死骸は海へ投げ込み、船玉樣へ御神酒を備へ、芽出度／＼の若櫻樣は、枝も榮ゆる葉も繁る、船唄面白く錨を拔て帆を入合に張り、播州の地方を指して漕ぎ出しました

東京電報（九日）

▲内相官邸の談話會　平田内務大臣は昨十三日午後二時より内務省高等官一同を同官邸に召集し談話會を開催したり

▲練習艦隊の厚遇　八代司令官の率ゆる練習艦隊は米國沿岸到る處厚遇を受けパナマにては特に候補生まで運河工事の見學をなせり本艦隊は十二日パナマ發航しアカプルコに向ふ冒八代司令官より來電ありたり

▲治水費の提出　今期議會に提出さるべき治水費額は一億八千萬圓にして内河川改修費一億四千八百六十六萬圓砂防工事費千五百萬圓森林經費千六百三十四萬圓なるが之が要求の形式は一括して治水費として提出さるべし

▲修道院の新設　先般露都に於て開會せられたる萬國宣教師會に於て聖公教會にては日本に修道院を設置し青年の布教に努むる事を決定したり

▲電話事業と新法　我が邦電話事業は創立以來年々發達し現在に於ては約十二万餘の加入者と約四万餘の未設加入申込者あり然かも尚ほ毎年二千五百餘の新規申込者ありて電話需用の趨勢は益々增進して停止する處を知らず從つて遞信省に於ては此の狀況に應ずる爲め寄附金制度至急架設等の新法を案じ四十四年度に於て規定繼續年割額四百五十万圓に四十五年度より百五十万圓を繰上げ增加して六百萬圓と爲し今議會の協贊を求むべし

▲兩師團聯合演習　第六第十八の兩師團聯合對抗演習は愈々來る二月上旬より肥筑の野に於て擧行する事に決定したりと

▲京都の補欠選擧　京都の補欠選擧結果は昨日發表せしが中央倶樂部の濱岡光哲氏千八百九十八票にて當選す

▲東北の大吹雪　東北地方は大吹雪の爲め東京以北北海道に至る電信線の一部は不通となれり

雜報

●寺内總督の出發　寺内總督には愈々十五日南大門發特別列車にて南路釜山を經て東上すべしと云ふ尚は總督の隨員としては秋山參事官藤田副官以下數名なりと

●朝鮮海關工事　政府は朝鮮における貿易の增進に伴ひ各開港地の水陸聯絡設備の完成を期すべく總經費八百二十七萬一千八百二十九圓を計上し先づ來年度に於て九十万二千八百四十五圓を釜山に五十三万三千三百九十四圓を仁川に三十二萬五千圓を鎭南浦に六萬二千九百六十圓を平壤の各稅關工事に支出するに決し釜山は四ヶ年仁川は六ヶ年鎭南浦は三ヶ年平壤は二ヶ年を以て完成せしむる豫定にて尙前記各稅關其他元山始め馬山新義州群山行廠各稅關支署を新營し以て貿易の發達安固を圖る筈なりと

●總督府長官會議　十四日午前十時寺内總督は同官邸に山縣政務總監以下倉富石塚木内の各部長官明石警務總長大屋鐵道局長池田遞信局長官、國分、小松、鈴木、關屋、小原、兒玉の各局長等三十餘名を召集し最後の長官會議を開き午後總督不在中の政務に關し協議し正午々餐を開き一時より引續き協議し二時散會したり

●技術官會議（第三日）　農業技術官會議第三日は引續き十四日午前十時より舊礦務課廳舍に於て開催し木内農商工部長官、中村農務課長以下例日の如く三十餘名の技術官技手等列席し午前中は左の三項に就いて各地の情況其他の陳述ありたり

（八）家蠶飼育及び桑樹栽培の成績
（九）養蠶主要地とすべき地方の選定
（十）各地風土に適應する蠶種及び桑苗の種類

右三項の諮問事項を説明したる後一同午餐を爲し午後一時半より更に他の項目に關して議する處あり午後四時過ぎ解散したるが十五日は日曜日なれども引續き開會する由なり

●京城府面法成る　目下各道に於ては新に面制制定中なるが京城府は既に其草案脱稿せしを以て十四日道廳に提出し打合を爲したりと

●森林法の改正期　朝鮮に於ける造林計劃に關しては既報の如くなるが併合と共に各種の經營も多端なるより森林法も隨つて改正の必要を感じ目下農商工部山林課に改正の草案中にして近く議會に提出來年度より實施さるべし

●切手印紙賣捌規則　十四日府令第一號を以て郵便切手類及收入印紙賣捌規則を發布され公布の日より施行の事となれり

●新教科書の脱稿　客年十月以來學務局に於て編纂中なりし朝鮮人子弟教育に充つべき新教科書は昨今全部脱稿したるを以て近く公表するに至るべきが來る四月の新學期より一般に分布するに至るべしと云ふ

●滊車檢疫開始　脚ペストは哈爾賓より漸次南下して大連及び安奉線に發生したる爲め愈々十四日より右豫防の爲め新義州驛に於て滊車檢疫を開始せり

●斃鼠屆出地域指定　本紙三面所載斃鼠屆出方令達と同時に總監部第六號を以て其屆出地域は平安北道新義州京畿道仁川港と指定されたり

●教育の方針　關屋學務局長の談に依れば朝鮮兒童に對する我が教育方針は各般の人々より其發表に關し非常の注意を以て期待されつゝあるも予の考としては兒童の教育方針は必ずしも具體的の字句を並べて決定するの要なく各自其局に當るものが其時宜に應じて最善の策を採るを以て足れりと信ず故に大方針既に總督の諭告を以て定まれるを以て其大方針に基きて之れを實施すれば教育方針なる具體的の文字は敢て發表せざる考也云々

●東拓移民貸與地價　東洋拓殖會社の募集に係る第一回移民は本月二十日より三月十日迄に渡鮮し來る筈なるが其戸數百七十三戸にして一戸の人口五人平均なれば八百六十五人の移民を行ふ次第にして中甲種移民は一戸に付いて數町歩を貸し付くることゝなり居れるが之れ等は六歩の利子にて廿五年間に返還する規定の由なるが總督の認可を得たる移民に對する各地田畑の貸與賃は次の如し

馬山（田）十六圓乃至三十五圓
固城（田）十四圓乃至二十八圓
　　（畑）十二圓
榮山浦（田）十八圓乃至二十二圓
附近（畑）八圓乃至十圓
江景　全北（田）二十圓
金堤　金溝　泰仁　井邑　古阜　連山（田）三十圓乃至三十五圓
魯城（田）二十五圓乃至三十圓
石城（田）三十圓

乙種移民は水原、霧嶋地方に移住する由なるが第二回移民は來二月募集廣告を爲す筈にして其戸數は七八百戸なり

●朝鮮貿易旬況　下關門司兩港に於ける本月上旬の朝鮮貿易額は左の如し

	下關港	門司港
移出	三一〇、六七六	四八、二六〇
移入	二九、二六〇	三、七二八
出超	二八一、四一六	四四、五三二
△移出重要品		
精糖	一四、六九〇	八、〇〇〇
清酒	三七、九六二	一、〇一二
綿織糸	一二七、二四五	、
綿布	四七、九九七	二、〇八〇
△移入重要品		
大豆	一四、二八八	四、五四五

●山陰線連絡大貨物　鐵道院にては山陰線連絡大貨物中（生絲、鳥、魚、穀物、竹の皮、木の皮、木炭、下駄用材、稻扱、紙屑、襤褸、綿紙、油類、鷄卵、空瓶、陶器、經木眞田、繭、屑絲、生皮苧、氷）の運賃を特定し四十四年二月一日より實施すべく鳥取發山陰線着石油、大坂發山陰線着和酒外二品に對しては本月末日限り特定運賃を廢止する由なり

●生絲鳥魚高率運賃　鐵道院にては二月一日以後二級品中氷及び高級品中生絲、生鳥魚に限り別に高率なる運賃を徴收する事あるべく尤も右の場合は關係停車場に掲示すべしと

●遭難漁民の救濟　古群山島蝟島に於ける遭難漁民は當時一時の糊口を受けるのぼ下寒風凛烈の候なるに仕食なる窮境に沈淪せるもの數百名の多きに達したる同道廳より内務部へ向つて善後策には申請中なりと云ふ

●百三十銀行下半期營業狀況　菅原大太郎氏談　昨年下半期の景況は取立てゝ申上ぐる程もありませぬが春以來どちらかと云へば閑散で在つた商況が期の初め則ち七八月の農繁の時機に入りて一層閑散の狀を呈し預金は增加する一向確實な借手のないと云ふ狀況でした殊に内地の金融は未曾有の緩慢を稱せられ平素預金の多い銀行程其苦痛多く利下を引下げるやら或は利子の付け方に制限を付するやら樣々の手段を取つて其損失の輕減に努めたものです朝鮮に於てはそこまでは至りませんが貸出利率は漸次引下をなし昨年一昨年の高い時に比し日歩一錢以上もさがつて居るのであります十月新政の發布と共に人氣一時に引立ち商人も茲に愁眉を開いて相應に冬物仕入をなしたが年末が意外に賣行が鈍かつたとこぼす商人もある樣ですが元來景氣不景氣は程度の問題で動もすれば戰爭時代を夢想するから不景氣の歎聲も出るが是は近來一般が質素になつたのと今一つは同業の增加に伴ふ競爭の結果延賣が盛になつて賣掛金の回收が永引くと云ふ樣な事が主なる原因になつて居るのではないかと思ひます現に貿易統計を見ても朝鮮全体で輸出入三百餘萬圓も增加し殊に注意すべき事は輸入品中酒煙草等の奢侈品が減じて綿布綿糸其他の必要品が大に增加して居るのを見ても大勢をトする事が出來ませう隨て當行金銀出納は前期前々期と變りなく預金は一割位の減少を示し居るが貸出は反對に一割以上の增加を示し尙益々增加の趨勢にして利益も先づ前期に劣らざる成績を擧ぐることを得ました今期に於て一層業務も發展するであろうと豫期して居ます云々

●兩國幣中社昇格　内務省告示を以て左の二社を官幣中社に列せらるゝ事と決定せし旨は既報の如くなるが可き旨仰出されたり

國幣中社　嚴島神社（廣島縣）
國幣中社　住吉神社（山口縣勝山村）

●關釜連絡船交代　關釜連絡會下山丸は目下青森函館間運航の梅ヶ香丸と交代する事となり同船は十二日限り關釜間の運航を休止し同日直ちに青森へ向ひ廻航せしを以て薩摩丸は十二日第二便に當十三日三便にて發以後三、四便を運航し又對馬丸は十一日壹岐丸は十二日第一便當分の間二船にて一、二便を運航すと云ふ

●仁川港設備委員會　仁川港設備委員會は來る十七日午後二時より仁川倶樂部樓上に於て開會する筈

●恩賜紀念桑園　忠南大興郡に於て過般兩班儒生の耆老者へ恩賜あるや一同は今更らの如く聖恩の難有に感泣し李某と云ふ兩班の如きは從來内地人に對して餘り良き感情を持たざりし者なるも恩賜あるや翻然志を改めたるのみならず今回の恩賜を永く紀念せんとて卒先して同志を語ひ恩賜金の内より各五圓宛を醵金して桑園を設けんと奔走しつゝあり

●穀物稅撤廢運動會　穀物輸入移入稅撤廢請願運動委員東上に關し聯合會にては仁川商業會議所より加來會頭を推薦したるも同會頭は都合上東上する能はざるより同役員にては穀物協會々長たる奧田貞次郎氏東上の事に決定せし由

●東拓の技術官招待　東拓にては目下入京中なる技術官會議に列席せる諸氏を明十五日午後五時より京城ホテルに招待し互に意見を交換する筈なり

●慶北警務部移轉　慶尙北道警務部は去八日元慶尙北道觀察道廳舍跡に移轉し事務を開始す

●小川代議士招待會　代議士小川平吉氏入京に付同氏の同窓生及知人は來る十六日午後五時よりソンタクホテルに於て招待會を催す筈なるが參會希望者は膳檢事及東拓の嶺氏まで申込むべしと云ふ

●牧山耕藏氏歸京　母堂逝去に付き郷里歸國中なりし牧山通信社支局長は十五日夜着の京釜線にて歸京の筈

●小川代議士の退京　政況視察の爲め滯京中なる同氏は十七日退京の筈

●投票場と龍山　龍山市區より要請せる民團議員選擧投票場增設の件は法令の規定上二ヶ處となすを得ざるより十三日彌南大門小學校一ヶ處と決定せしは既報の如くなるが其實龍山市民の代表委員に通達したるが同市民は更れに滿足する能はず即日會合を催ふして飽迄も初一念を到達すべく決議し更に代表委員を增加して監督官廳に交渉する事となりたる趣きなるが先づ龍山投票場增置の根本的問題として選擧名簿の副本作製の許可を稟請すべき筈なりと

●次回稅制主査會　十三日の稅制主査會の決定に基き來十八日午後一時より民團樓上に於て第二回の主査會を開く筈なるが當日は各主査より提案せる調査の方針方法に付き審議を開き其決定により更に委員會を催し愈々調査に着手すと云ふ

●新計劃と民會　民會及び新事業計劃委員會は十四五日頃開催すべき旨議長に報道せしが委員會より委託されたる民團經營者の事業實査報告未だ結了せざるより多分廿日頃委員會を開き其決議報告旁々廿二三日頃民會を招集すべしと

選擧界の表裏

▲有權候補會見　西部の有權者は十三日午後七時より不知火旅館に集合して既報の候補者八名を招き同志の推薦顚末を告げ其承諾を求めたり出席者は約五十名に達し殆んど各町聯合會の觀ありたるが頗る圓滿に會談し和氣藹々の裡に散會せり

▲西部の候補不足　西部には尙二名の候補者不足あるが之が撰定に就ては同部一圓の現勢を顧み偏頗の嫌なからしめん爲め各町に亘りて詮衡を遂ぐべく内定し目下物色中なり多分今明日中には何等か決定すべし

▲中部の權衡論　中部は始め本町二三四丁目より五名明治町より一名南大門通より一名を撰定したるが計らざりき明治町より物議を釀もし曰く本町より斯く多數を擧ぐるは我田引水の極みなり殊に中部と稱するも其街區を顧みれば猫額大の地域に過ぎず故に大に擴張すべしと敎圍き遂に本町より三名明治町より三名南山町より三名及和田常市氏に決したりと

▲龍山側の難局　龍山側は今尙四分五裂の醜態を極め此形勢を以て推移すれば一人も選出し能はざるべし此形勢を見たる西部は民團將來の爲めを思ひ現に二名の餘地なるを以て龍山の候補を容るべく十四日午後南源太郎氏を以て交渉せしむる處ありたるが遂に不得要領に了はれり

▲一騎打候補者　各部より除外せられたる候補希望者は孰れも是等の人々は如何にもして此無念を晴らさん爲め劃策怠りなければ愈々其最後には龍攘虎鬪の肉薄戰を見るべく期待せられ各部とも此一騎打運を恐れ居れり

▲和田氏と西部　和田常市氏は西部の推薦を受けたるも連袂候補者の顏振に不快なると中部の地盤鞏固なるとにより遂に之を謝絶したり

▲舊議員と新議員　今日までに贏ち得たる候補者を見るに各部の新舊色分けは左の如し

東部	舊議員	四	新議員	四
中部	舊議員	七	新議員	三
西部	舊議員	二	新議員	六

此現象に見れば西部は最も新議員多く東部は相半ばし中部は舊角元老万能の傾向ありとて非難の聲高し

▲選擧事務所　西部は既に不知火旅館を以て假事務所に充て今明日中に公然開設すべし東部も兩三日中に開設する筈なり

民團議員豫選投票（十四日締切迄着票通計）

票數	氏名
九百三票	增田三穗
六百八十七票	曾我勉
六百五十四票	山口太兵衛
六百四十五票	和田常市
六百四十票	中島司馬之助
六百三十八票	中村再造
六百三十三票	三好和三郎
六百十七票	關繁太郎
六百十五票	松永達二郎
六百九票	森勝次
五百八十五票	前田熊市
五百八十票	皆川廣濟
五百七十八票	城六太
五百四十一票	池田長兵衛
五百三十四票	林田金次郎
五百三十票	秋吉富太郎
五百十六票	古城梅溪
四百七十三票	小林藤右衛門
四百四十票	田村義二郎
四百二十八票	伊藤友松
三百九十二票	深水清
三百八十五票	松浦源治
三百八十票	進辰馬
三百六十三票	池田長次郎
三百四十七票	阪敬明
三百三十一票	大坪文吉
二百七十一票	國井泉
二百二十六票	佐野彦藏
二百十三票	海津三雄
二百七票	小川勝平
百八十三票	益永十作
百八十票	山下新太郎
百六十二票	古迫角次郎
百四票	近藤佐五郎

十二票河崎順平、七票栗山健介、五票廣池久太郎、四票藤富國太郎

注意

前號に發表せし得點者にて其儘なるものは本日の表に加へず尙本日よりは一百點以下の得點は新候補者以外は不掲載

▲治外法權▲

日露戰役に面當の爲とか一部の政客が清獨同盟を造らんと企てたのは滑稽な事だ、獨逸の海軍は英國海軍に對抗上東洋には遲れぬ、況んや獨逸の陸軍は歐洲兵備の均衡上寡の一隊でも東洋には送れぬ▲一部の清人曰く清國は兵力を獨逸に依頼し、資本を米國に仰ぐと、コンナ旨いことが故障なく出來ればソレコソ結構なことだ▲併し自らを顧ますして他を頼みにする計畫は總て外れるものだ、一部清人現在の計畫もソウならねばヨイが▲尤もノンキな、清人等は獨逸の皇太子が近々北京へ乘込の節清獨同盟が發表されるものと信じて居る、嗚呼樂觀もコウなつては悲慘だ▲記者はイツもながらの日清同盟論者だ、我國と清國とは今日に於て唇齒輔車以上の關係があるのだ、敢へて清獨同盟に反對はせぬが公平冷靜に考へればドウしても日清同盟の方が清國の爲めに利益だ斯は決して我田引水論に非らずだ▲十三日午前韓國銀行を覗ぞいて見ると白衣の新同胞が一パイだ、獨り中のみならず、外にも溢れて居た、成人彼等を暴徒の群集にあらずやと尋ねて見たらナアに彼等は納稅の爲め本金庫に押寄せた良民も良民一粒撰りの良民であつた▲此數日來當地の寒氣は屋外零度以下二十度だ、此極寒の際に賴りにすべきものは只だ薪炭ばかりだ、トコロで難有事には伊藤公や曾禰子時代に一俵一圓十錢ツヽの炭が今は八十錢だ、アー炭の安い原因はと云へば地方が穩かだからだ▲滿洲のペストは非常な勢だ、今に當方へヤツて來るかも知れぬ、ソコで一番の注意は鼠を調べることだ、讀者諸君ユメ忘れ玉ふな▲十三日の夜花月で催された金融業者組合新年宴會は中々盛んであつた、餘興扇引の洋ダンス（用箪笥）は東拓の代表者に當つた、併し扇引中最も振つた新藥六〇六號でも治療らぬカサ（傘）は誰に當つたか知れぬ。

活動寫眞　覆面子

十四日 朝の南大門驛

夜は明けた、紺碧に澄み渡つた空からは未だ心地よい月光が射さぬ、鈍いよな、暗いような、陰鬱な空氣は凸凹の家並に漂よて進行く人の頬は寒風に撫でられて紫色を呈して居る、豆腐屋のベルは高く振られて消い響きが傳はる、

電車一輛、北より南に去つて、冷たき空氣は波動して何處よりか鷄の鳴き聲が聞ゆる靜だと感じた、

停車場内を彷徨すれば、黒衣の人、白衣の人、漸次其數を増して暖爐の周圍に冷たさうな顏が重なる、

手荷物扱所には

[illegible]まと新聞　**烟尾健順**

の名刺を挿んだカバンと

[illegible]　奉天驛長殿

との木箱が目に着く、

一等室のベンチには、**鎮南浦**城山町　**清水辰平**とある信玄袋があるも人が見へぬ、三等室には、**京城宣教所中尾彌三**と書した小カバンが捨てられたように隅に在る、

岡山市、野上猪八の木札ある李二個と、清國長春　藤田譲昌堂行の大箱四個とは棚上に陳んで山を爲した、

徳富蘇峯君

は西大門驛發の列車に乘じて、此所に多數の見送人に擁せられた、

寒い〳〵臥は場内を吹き捲くつて、赤帽は、今日は淋しいですね、と喞つも痛はしい、

午前九時、發車のベルは高く響いて、頸を縮めた男女が乘せ終つた列車は靜かに釜山を指し動き、

同九時十三分　**雪深き北地**に**向ふべき列車**も無事に放れた、

人出て去りし場内に立ては、**喫茶店**のメードの鈍ある**島田髷**が硝子戸越しに紅い袖と調和して、ふと新嘉坡あたりのバーを思ひ出さしめる

●木取つた技手

東京市深川區小松町四番地當時仁川花町三十一番戸ノ四高井末太郎(三五)は元韓國政府度支部技手として建築所仁川出張所に勤務中昨年二月頃より仁川稅關倉庫第一號二號煉瓦造新築工事の現場監督を爲し居り同所九月十五日該工事竣成し其の際官給用材紅松十一本の殘存せるを横領の目的にて二三日を經て部下雇員菅岡治郎をして竣工當日附にて物品保管主任高井末太郎名義を以て物品會計官吏佐久間省三宛該工事用官給木材全部支給を爲したる虚僞の文書を僞造せしめ之れを行使し該材木を自宅に運び家屋新築用に費消したる事件は京城地方裁判所仁川支部に於て豫審中の處取調終決當地方裁判所檢事局に移送せられ河村檢事の手にて公判に付せらる

歌留多競技會

▲日時　來る十五日(日曜)午前十時より

▲場所　明治町　浪花舘

▲懸賞　一等より十五等まで

▲會費　一名に付金五拾錢(粗餐を呈す)

右の通り相定め候間同好の諸子は男女を問はず御來會希望致候

競技者以外の入場者に對しては混雜を防ぐ爲めに一名に付金五錢申受候事

尚競技委會として左の諸氏を推薦せしに依り競技者は絕對に委員の指圖に服從せられ度き事

▲それから會　松岡氏　岡宮氏
▲霞會　前田氏　滿田氏　小山氏
▲鐵道局有志　永田氏　高松氏
▲つらぬき會　志賀氏

競技場内に於ては競技者と傍觀非競技者とを問はず本社員及び競技委員の指圖に絕對に服從せられ度き事

(競技委員の徽章は赤色リボン　本社員の徽章は青色リボン)

當日の優勝者及び勝者に對し**副景品**として左の**寄贈**ありたり

本町二丁目　**日韓書房**　大倉發行當用日記十冊

長谷川町二丁目　**廣江商會**　麒麟十箱　常盤木十箱　寫眞撮影券(中判ブロマイト二枚續)二組

南大門通り　**岩田寫眞館**

上等ハンカチーフ三打　本町二丁目　**辻屋**

タオル一打　**丸一吳服店**

赤銅金張鐵一連　本町四丁目　**織居商店**

箱入上等栗田菓子器一個　本町二丁目　**前田陶榮社**

上等羽織紐一掛　本町四丁目　**百福號**

標準カルタ二組　本町四丁目　**町田文林堂**

東京新聞購讀券五枚　**盛文堂**

置時計一個　本町二丁目時計商　**喜多金光堂**

上等襟巻メリヤス上下　**菊家文之助**

敷島大壹箱　**菊家小鈴**

競技中は**非競技者は靜肅**に**傍觀**せらるべく若然らざれば退場を乞ふことあるべし

●同化の魁

朝鮮平安北道江界郡邑內補興洞二統二戸金召史(二三)

蓋も取れずに飯ぐるみ(氷)

どいふ朝鮮美人は歸里在住中同所駐任中なりし我憲兵上等兵大町權左衛門(三八)と婚約整ひ夫より內地の事ども聞くに附け是非同伴して見物せばやと思ゐたる大願成就大町憲兵は今回青森縣弘前憲兵分隊へ轉任に決し茲に相携ねて十一日午前八時關釜連絡船壹岐丸にて下關上陸同九時三十分赴任せるが今後は此種の旅行も度々見る事ならんか

●仁川の鼠買上

仁川警察署内に於て仁川防疫部を設け目下滿州地方に猖獗を極めつゝある肺ペスト豫防の爲め流行地又は經由の旅客に對し稅關と協力して嚴重なる檢疫を施行し又た市內捕鼠奬勵の爲一疋三錢にて各衛生組長及面洞長にて買上げると

●持兇器强盜逮捕

京畿道楊川郡生れ金聖顯(三七)金福成(二四)揚平郡生れ谷汝凡(三七)加平郡生れ金敬陽(三七)李水奎の五名は共謀して昨年八月何れも兇器を携へ揚州郡上道面蓋洞二十六統一戸李麟夏方に亂入百六十餘圓に相當する金品を强奪したる事京城第一憲兵分隊に探知され逮捕取調の上檢事局に送らる

●鼷鼠屆出に付き

總監部第一號を以て十四日肺ペスト豫防の爲め鼷鼠發見屆出に付き如左令達せり

ペスト豫防の爲め特に指定したる地域內に於て鼷鼠を發見したるときは速に所轄警察署又は巡査駐在所若は巡査派出所に屆出つべし

本令に違反したる者は拘留又は科料に處す

本令は公布の日より之を施行す

●呆れ果てた女哉

西部盤松坊治洞十七統十三戸煉瓦職崔聖完(三〇)の妻吳姓女(十九)は夫婦喧嘩して同坊柴石洞四十六統五戸酒色家李元日(三七)方に逃げ行きたるより李元日及妻宋姓女(二〇)と共謀して程よく說き付け之を收容し夜は李元日に於て姦し晝は賣淫爲さしめ一回金五錢都合五回賣淫せしめ西部署に引致され嚴重に說諭の上吳姓女は崔聖女に引渡したりと

●聯合義太夫會

梅鶯會、竹豊會、龍糸連、吉評連、皆登連の天狗連は十五日午前十時より萬千閣に於て聯合義太夫大會を開き一人十五分以內に一口宛語る由にて同好者は何人にても家族同道來會せられたしと

日曜集會

●京城基督敎會(日の出町)同敎會にては十五日午前九時より日曜學校同十時より禮拜說敎及び米澤牧師の「深刻なる人生」說敎あり

●微笑會(初音町二丁目)臨濟寺に於て十五日午後二時より無盡燈論例會講唱

●日本キリスト敎會(旭町四丁目)に於ては十五日午前十時より禮拜說敎、平山牧師の「熟果」說敎午後二時より日曜學校同七時より傳道說敎及び丹羽淸次郎氏の演說あり

●日本メソヂスト敎會(旭町二丁目)に於ては十五日午前九時半より聖書研究日曜學校同十時半より禮拜說敎午後七時より木原牧師の「愛の泉」及び曾田嘉伊知氏の傳道說敎あり

●演藝だより

●壽座　同座十五日の晝聽は前狂言大物浦船椅　渡海屋知盛入水迄切狂言戀娘昔八丈白木屋の段尚は十六日の前狂言は蝶千鳥曾我成長大序より由井が濱迄切狂言吾妻土產戾り籠なり

●歌舞伎座　大入氣中なりし島之助一座十五六兩日は吉澤德太郎及び防長雛誌主任村井良木兩氏主催にて忠臣藏通しを演ずる由

●浪花舘　東京落語音曲手踊手枝一座にして木戸錢代共二十錢均一なり

●取消　本月十四日發行の貴紙第六百號に「生徒寒極まりて泣く」と題して御掲載相成候記事中顏是なき生徒には寒さに堪へずして演說よりは火鉢が宜いと泣き出したるものありて長官の演說は中止となりたりと有之候へども右は事實相違に付此の全文を掲げて御取消相成度候也

明治四十四年一月十四日　櫻井尋常小學校印　京城新報社御中

▲平民文庫▼

▲別項「氷凍せる本町通り」はエスの字の投書なるが議員豫選投票函に投入されたるより延着した(係)▲平民は諸君閉眼に相通ず我輩目下活社會を免かれて閉戶貪眠す此時に當つて獨り大に平民文庫欄にのみ活動せんと欲す記者乞ふ以後常連として相當の空欄を與へられん事を(閉眼蚊子)▲又曰く時々閑文字を羅列して三面記事を投稿せんと寬容なる編輯長足下幸に時々一段又は半段の餘白を割愛する雅懷を示し給へ(同人)▲僕つら〳〵平民文庫欄を見るに仲傷に非んば卑猥、淫閥に非ざれば自家廣告一つも眞面目なる者なし之れじやあ官僚から平民の侮蔑せられるも無理は無い投書家諸士と共に今後大に本欄の向上に努めん哉(向上生)▲八日の午前二時仁川深井病院に至り院長に急病まある故來診を乞ひしに住所姓名患者の容体等を聞きし後約四十分も立つた頃今晚は不快なれば往診は出來ぬと云つた病人を以てパンを食ふ醫者が斯の不熱心不親切では……それなればそれと早く言へばよいのに人を一時間も待たせた揚句かゝる放言とは實に不都台千萬だ以後注意せんと食彈を失ふゾ(迷惑生)

●日の運勢●

一月十五日舊十二月十五日　四綠乙酉友引成△一白盜難官衛關係の事を防ぎ保證引受の煩を避くべし新事見合せの事△二黑婚姻合同結社宴會の事に尤も忌む尚は概して不穩旅行移轉改易變動の事に忌む不利紛爭を戒むへ四綠新事旅行婚議移轉見合せの事要求屈伏を受くる事あり△五黃相談委囑協約婚議に効無し賣買金品授受貸借間違起らん△六白建築土木協約商議婚議に吉其他手控の事△七赤新事大事手控への事組合共同の事婚議に尤も忌む色情盜難を戒しむ△八白旅行新事談判協議協約婚議に忌む盜難遺失の恐れあり△九紫移轉旅行整理改革模樣替に吉證券機密の故障を戒しむ

一月十六日舊十二月十六日　五黃丙戌先負納△一白新事婚議賣買貸借中裁協定徒勞に歸せん金融の業務に好適△二黑屋入れ婚議共同組合の事進んで吉保證引受奏會を禁ず△三碧新事談判交涉旅行貸借不動產の事効果らず遺失及子孫の事注意すべし△四綠新事旅行婚議に忌む要求強請斥くべし△五黃諸事謹愼の事婚議新事旅行に尤も忌む保證受博事審酒色賭事を禁ず△六白利得援助ある日なり衛生負傷注意の事△七赤屋入れ婚議宴會連盟合同の事に忌む其他進んで吉△八白移轉轉業改革模樣替に尤も吉賣買の事注意すべし其他平靜△九紫旅行裁判不動產の事に忌む其他進んで吉(本町五丁目三一館判斷)